学校だより

磨光

令和７年１１月１１日(火)
三豊市立本山小学校
No. １８
発行者：中田　祐二

１年前、今の６年生が、学習発表会の予行で長縄跳びの新記録を出しました。予行でその姿を見てしまうと、本番の感動が薄れるのではないかという妙な心配を抱きました。結局、１週間後の本番でそれを超える記録をたたき出し、さらに大きな感動を得ることができましたが、感動が上塗りされる体験は、そう滅多に味わえるものではありません。一度大きな感動を味わってしまうと、もうそれ以上の感動はないのではないかと思ってしまう「感動遭遇恐怖症」になりかけたのが１年前でした。

ですから今年。６年生から「学習発表会の練習を見に来て」と誘われても、かたくなに拒んできました。何度も見ていたら感動が薄れそうな気がして。他の学年も、極力見るのを控えてきました。

しかし、予行は見ないわけにはいかず、昨日、初めて全学年を通して閉校記念式典の発表を見ました。

閉校記念式典　―会場が一つになる―

音楽の演奏は、聴かれることによって完成し、文学作品は読まれることによって完成する。演奏者と聴衆、作者と読者の共同作業であると言えるでしょう。

この日の学習発表も同じです。これまで各学年でじっくりと練り上げてきた劇や歌は、いくら上手になっても未完成です。それは会場でフロアの人たちと一つとなった時、完成します。

１年生の「おおきな　かぶ」の劇では、力を合わせてかぶがぬけた時に、自ずとフロアから拍手が起こりました。２年生の出すクイズには上級生まで食いついてきて、「正解は本番で」と言われ悔しがることも何回か。見てくれる人、聞いてくれる人がいて、演技をする人は普段以上の力を発揮します。

華やかな発表の裏には、支える影の力があります。例えば左の写真。６年生はいつも他の学年より先に入場し、静かに迎えています。この日は５年生も。この背中を見て入場する下級生は、場の雰囲気を壊さないように静かに入ってきます。式典はここから始まるのです。

式典のその後は

１５日の「ふるさとの昼べ」では、キッチンカーにPTAの出店、ちょうさなどが運動場をにぎわせますが、校舎の中もお忘れなく。楽しい企画でお迎えします。

例えば「フォトスポット」。インスタ映えする写真をどうぞ。例えば「スタンプラリー」。スタンプを全部集めると豪華景品がもらえます。例えば……。あとは当日のお楽しみに。

思い出の校舎を、楽しみながら懐かしんでください。